

Crew Voice

2017年5月6日 第18号

JR東海労・新幹線車内業務見直し反対プロジェクト

自由席改札はやめるべきだ！本当に自由席改札が必要なら車掌3名体制を堅持すべき！

「車内業務の見直し」により、車掌長（列車長）では下り列車の自由席改札がのぞみで3両、ひかりで5両と大幅に増えると提案されています。現行でものぞみで3号車の改札は大変なのにプラス2両は労働強化以外の何物でもありません。

基本業務は車内巡回であると私たちの追求に対して

組合：3両の自由席改札。しかし、（自由席改札は）可能な限りではなくて基本は巡回強化ですよ。

会社：基本は改札することが基本です。自由席号車に停車駅が多いとか、すべての対応が難しいという列車特情があれば、あるいは特段の事情がない限りは改札を実施するというで対処していただければ。

組合：どうということが自由席改札で重要だと会社は考えているのか。

会社：自由席改札に関しては、早乗りのお客様もおります、そういうお客様に対して切符を拝見させていただくと、それに対して返席等必要な対応を行うことでより、多くのお客様にお席を提供できるという事で現行もやっていたらいい。

つまりは、自由席改札は返席が目的であると表明しています。東一輸・東二輸でも返席件数の多い所員を表彰する掲示でも明らかです。

自由席改札の重要性を言うのであるなら、現行の車掌3名体制が必要です。「自由席改札は可能な限り」という表現も結果的には作業指示として車掌の気持ちの中に「やらなければ・・・」という大きな負担になります。

また会社は返席で味をしめたかもしれないが、これは会社としての責務を果たしているとは言えません。本来、会社は「指定席をお持ちのお客様が乗り遅れても自由席に乗車できるよう救済する」としているのではないのか。実際には早乗りのお客様も増え、何の対策も講じずに車掌の返席に頼ること自体が誤りです。

会社が現状の指定席と自由席の重複席使用を改善しないのなら車掌3名体制を堅持すべきだし、車掌2名体制を進めるのであれば自由席改札をやめるべきだ。

車掌の労働強化を前提にするのは許されない！